


SPACE MODULATOR REPORT-1

大社文化プレイス——連続する空間

 日本板硝子

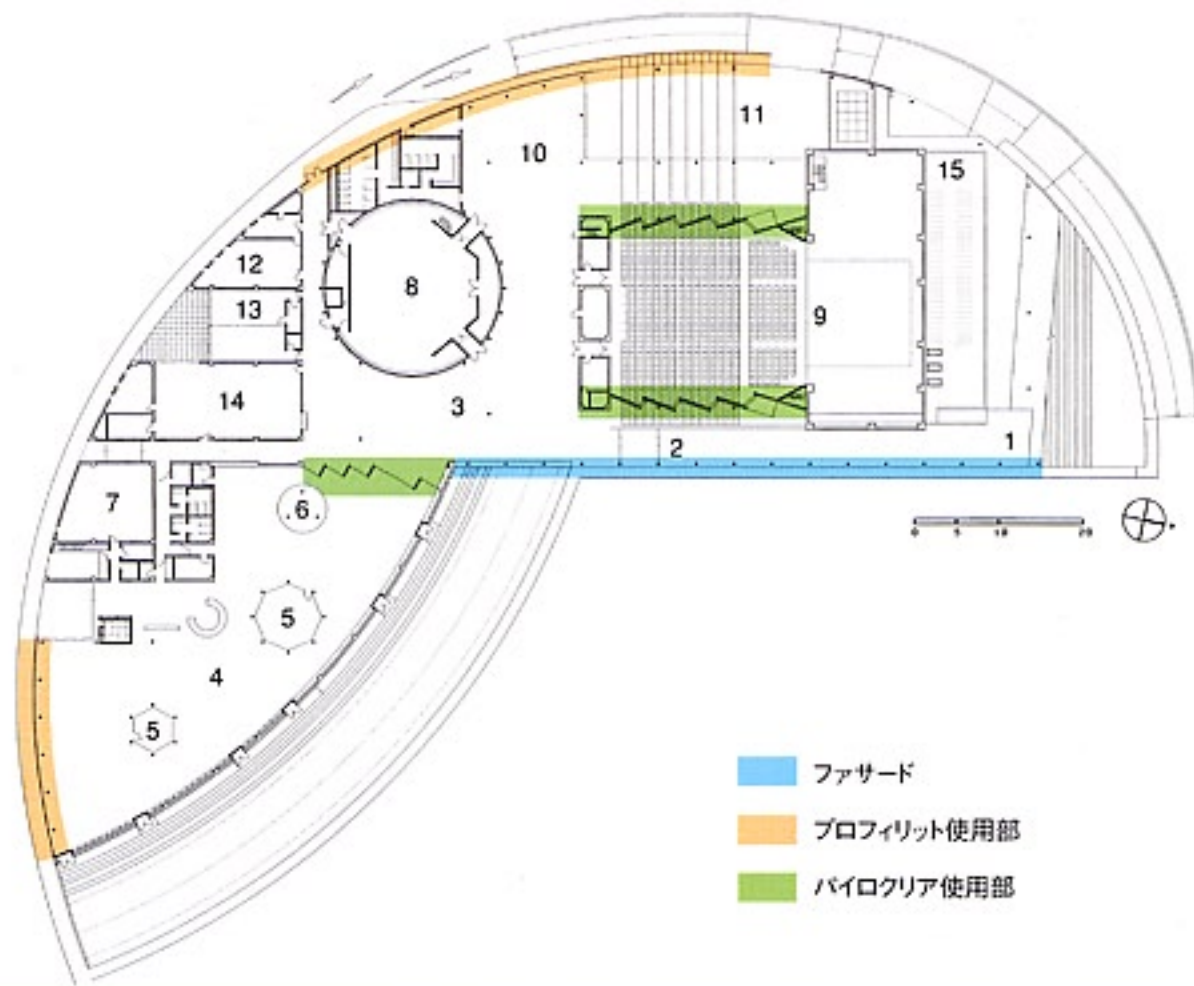


ファサード内観(共通ロビーよりエントランスを見る) photo by Ohashi Tomio

大社文化プレイスは出雲大社の参道近くにある。人口わずか1.6万人の町のホール+図書館である。町役場、消防署、中学校、民家、河川等に面する複雑な形状の敷地に対応すべく、平面・立面方向とも曲面を用いて穏やかでフレキシビリティに富んだ空間がデザインされた。多様な要素を統合する散策可能な周遊路に面する外壁は、コンクリート壁、透明ガラス、プロフィリット、ファインフロア等漸次変化しつつ内/外を柔らかく隔てて、明るく親しみやすい表情をつくり出している。屋根も墨入りのPC板によって瓦屋根の多い周辺民家との調和がはかられた。

内部は柔らかな間接光に包まれた空間内に変化に富んだ多様な行為の場が用意されている。ホールと図書館も、また各機能に応じた諸室も壁で隔離するのではなく、極力相互にコミュニケーションが生まれるべく連続する空間が意図された。(伊東豊雄)

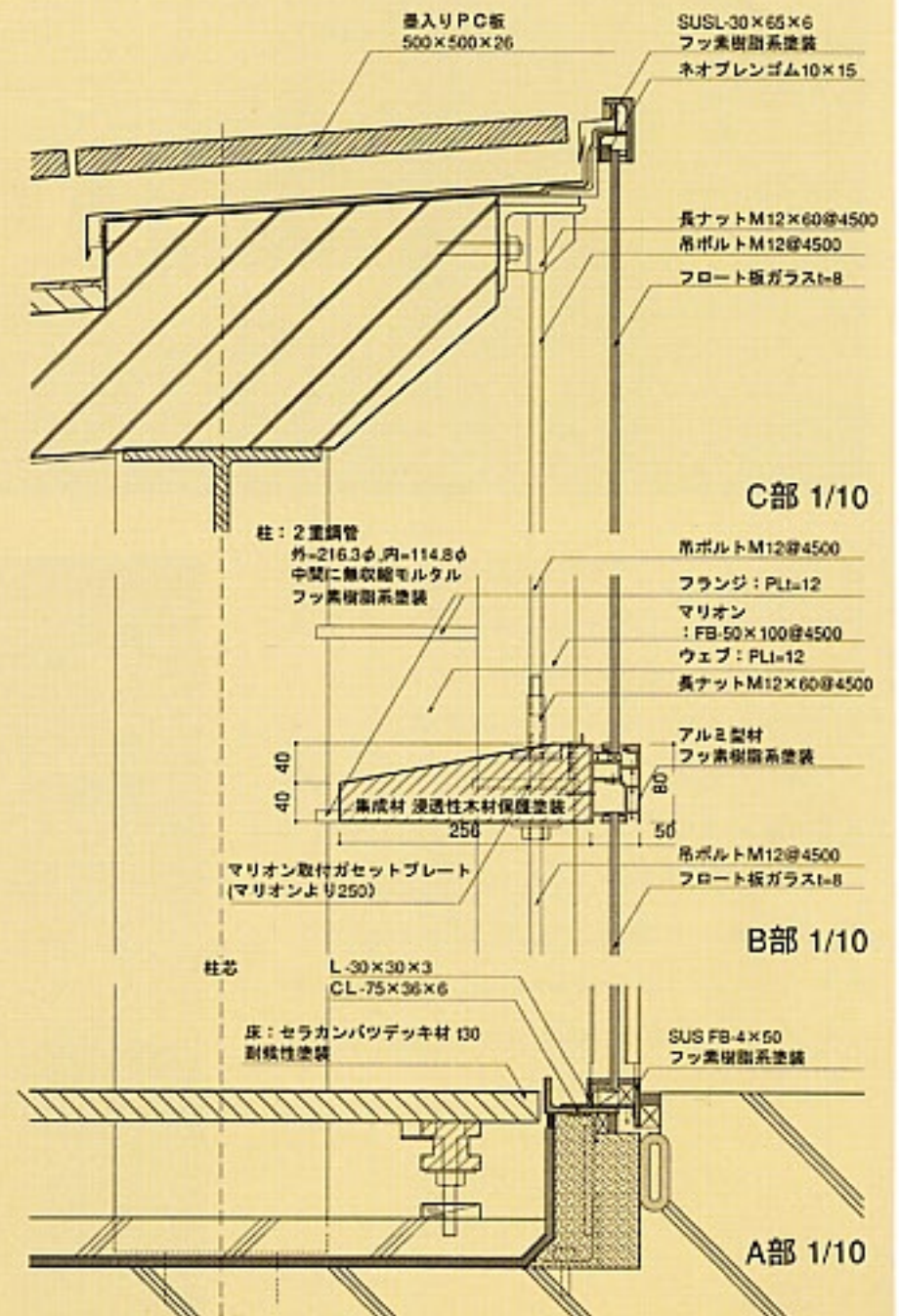
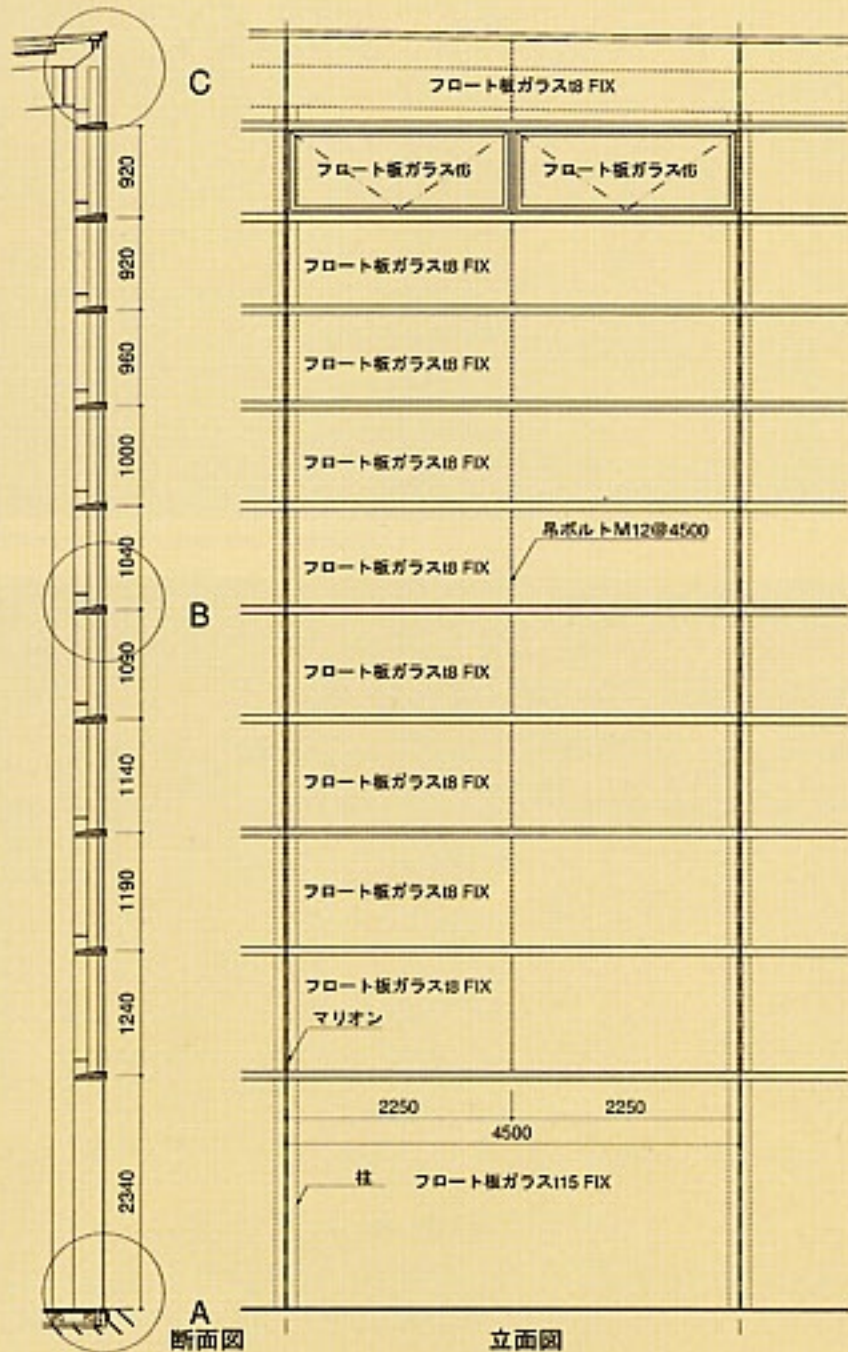
この建物では、1.山陰の曇天の多い気候風土の中、光あふれる明るい雰囲気をつくりだすため、2.一つ屋根の下で繰り広げられる様々なアクティビティが見えあうようにするため、3.内外の空間に連続性を持たせるため、ガラスが多用された。メインエントランスのファサードは、人々を招き入れるよう横方向の勢いのある大きな割付とされた。ガラスは上下2辺支持で取り付けられ、ルーバーの役割も果たす木製横方立てで保持されている。この横方立ては4500ピッチの柱割に合わせたスパンの中間部で上から吊られていて、細く、透明度の高いファサードを実現している。なお、コスト的配慮から、足元以外は全て同じ8ミリ厚のガラスであるため、ガラスはW寸法は同じ4500だが、H寸法は風圧強度から上に行くほど小さくなっている。

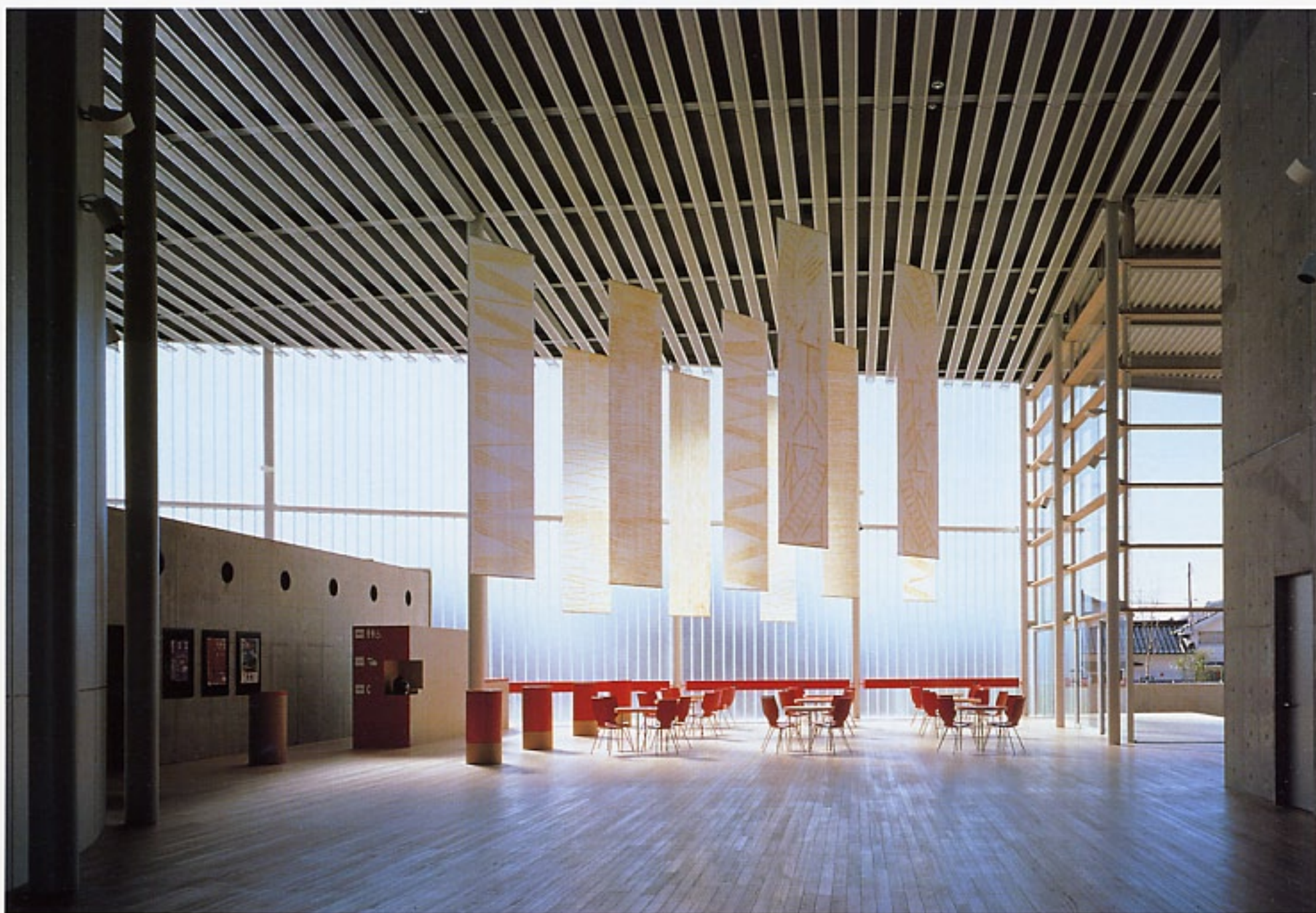


- 1F平面図
- 1:メインエントランス・アプローチ
 - 2:メインエントランス
 - 3:共通ロビー
 - 4:開架図書室
 - 5:中庭
 - 6:児童コーナー
 - 7:開架書庫
 - 8:ごえんホール
 - 9:だんだんホール
 - 10:ラウンジうらうら
 - 11:だんだんテラス
 - 12:学習室
 - 13:会議室
 - 14:事務室
 - 15:駐輪場

- ファサード
- プロフィリット使用部
- パイロクリア使用部

ファサードの屋根取り合い部・中間部・床取り合い部縦断面ディテール





ラウンジうらうら内観 photo by SHINKENCHIKU-SHA

図書室とラウンジうらうら部には、単体Wが262mmと小さく、縦使いにすることで曲面になじませられ、ダブル構成なら高さ約5mまでサッシレスにできるプロフィットガラスが採用された。ダブル構成で断熱・遮音性能が確保されつつも、透明ビニール管のバックアップ材などで軽快ですっきりとした印象をもち、内外の様子を曖昧に映し出す柔らかな表情のファサードとなっている。ラウンジうらうら（最大高さ約9m）では中間に無目材を入れているが、図書館南面（最大高さ約5.3m）は無目材なしで構成している。



図書室外観 photo by Tominaga Ken

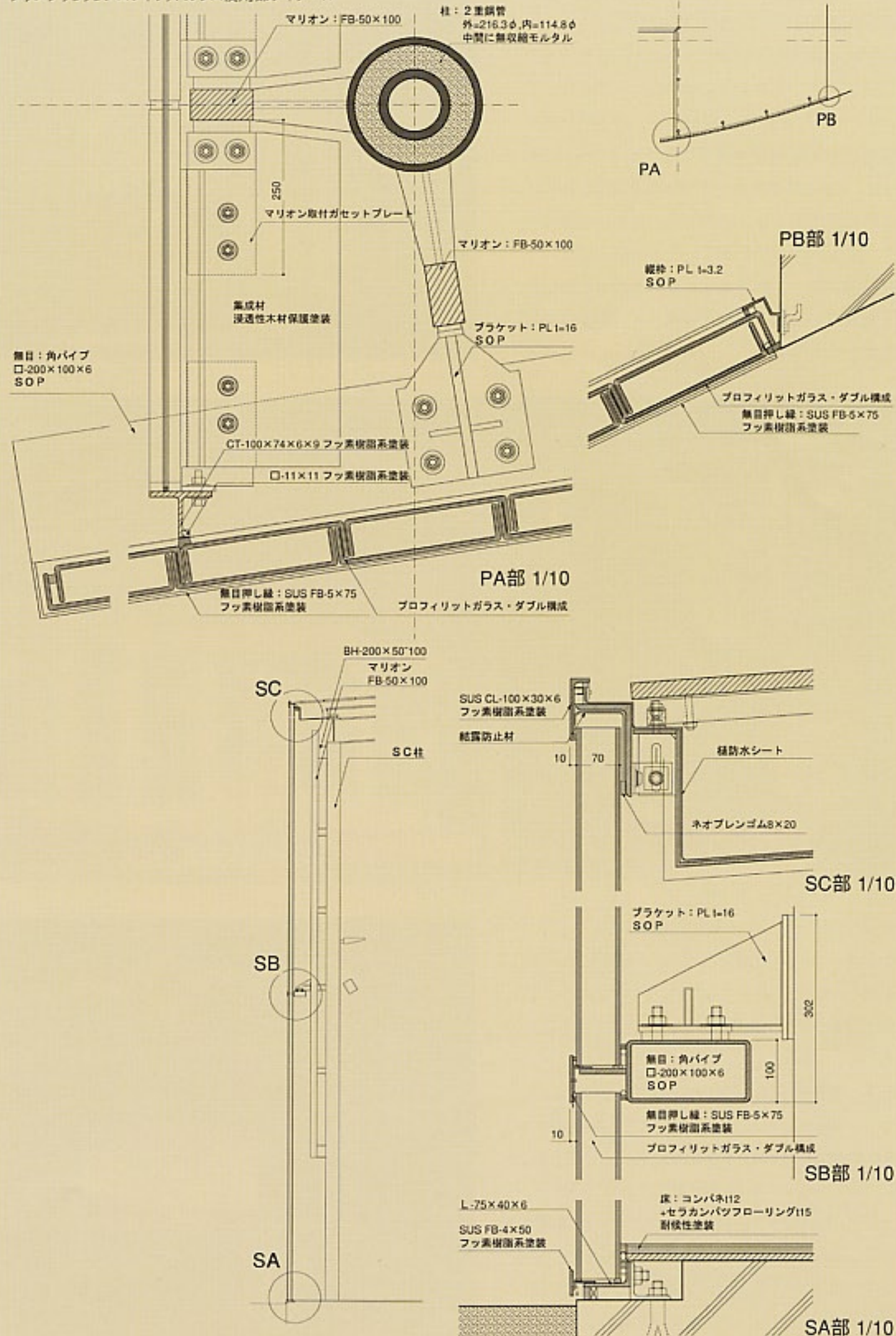


だんだんテラスよりラウンジうらうらを見る
photo by Ohashi Tomio



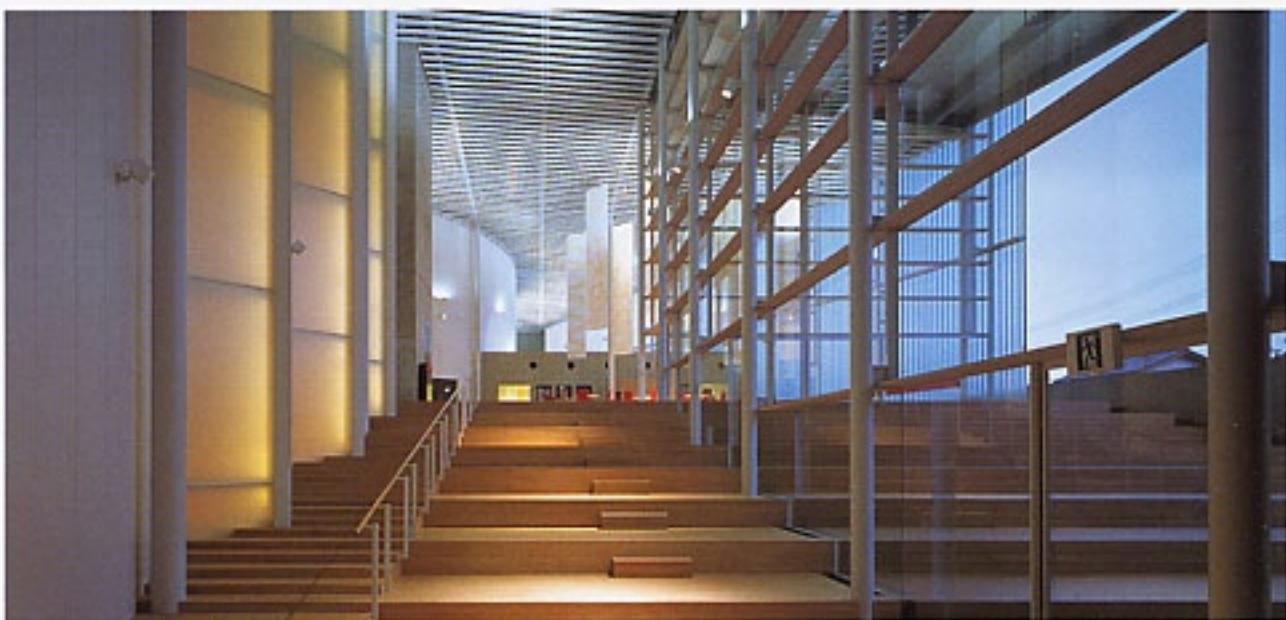
ラウンジうらうら開口部床取り合い photo by Ohashi Tomio

ラウンジうらうらプロフィルットガラス使用部ディテール



図書館と共通ロビーの連続した空間を実現するため透明にすることが意図された。

しかし、ここは防火区画とすることが必要であることに加えて、天井がゆるやかにカーブを描いている。そのため通常の防火シャッターや下部に採用した38条認定を受けた防火スクリーンのみでは、天井との取り合いが悪い。そこで、上部には防火性能をもちつつ透明なワイヤレス防火ガラスのパイロクリアが用いられている。ただし、甲種防火戸として個別認定を受けたサッシ枠を極力見せないような納まりにするべく、意匠的な配慮がされている。



ホール外観(左側の光壁部分) photo by Ohashi Tomio



図書館入り口部 photo by Ohashi Tomio

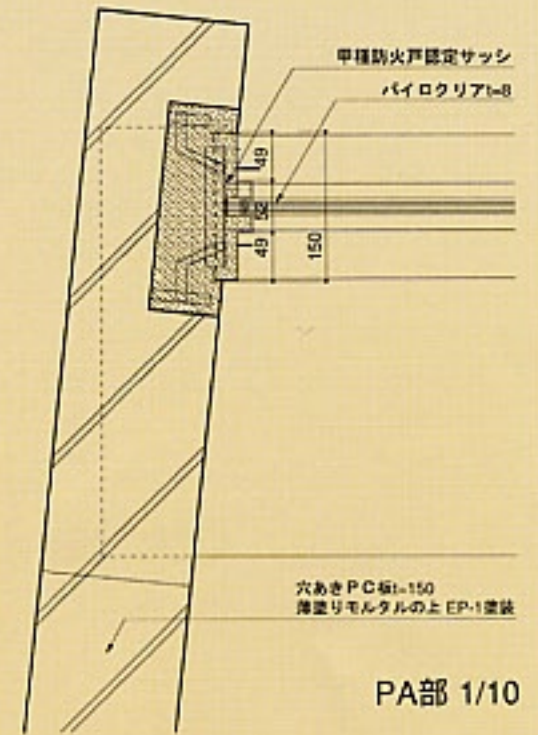
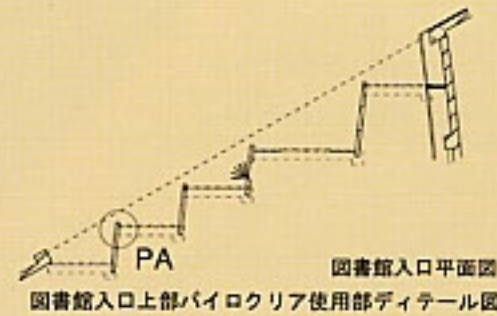
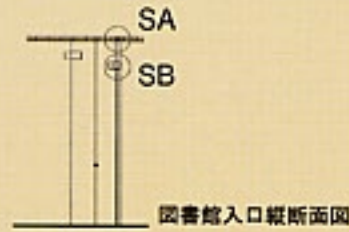
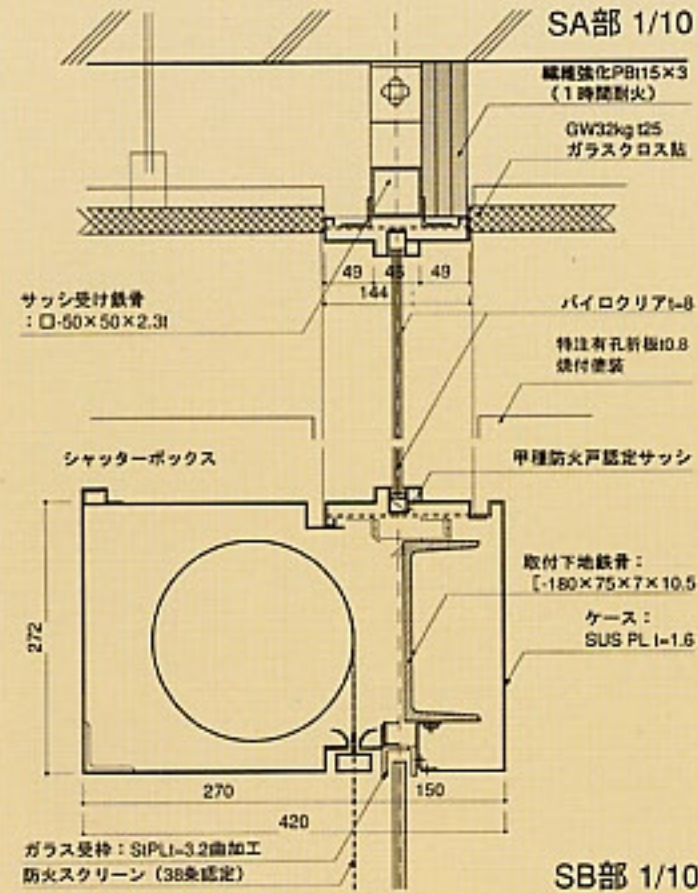
防火性能と共に高い遮音性能が必要な「だんだんホール」の壁面にも、ホール空間に自然光を採り入れて連続させるため、クリアな視界を確保できるワイヤレス防火ガラスのパイロクリアが用いられている。

防火・遮音性能は、「フロート板ガラスによる2重サッシ+防火シャッター」でも確保できるが、シャッターの納まりやメンテナンスが問題だ。そのため、「パイロクリア+フロート板ガラスによる2重サッシ」として、コストダウンとメンテナンスフリーが実現された。ホール内側には遮光用ロールスクリーンが設けられている。なお、上部は、この部分の屋根の挙動に対応しつつ遮音・防火性能を確保できる納まりとなっている。

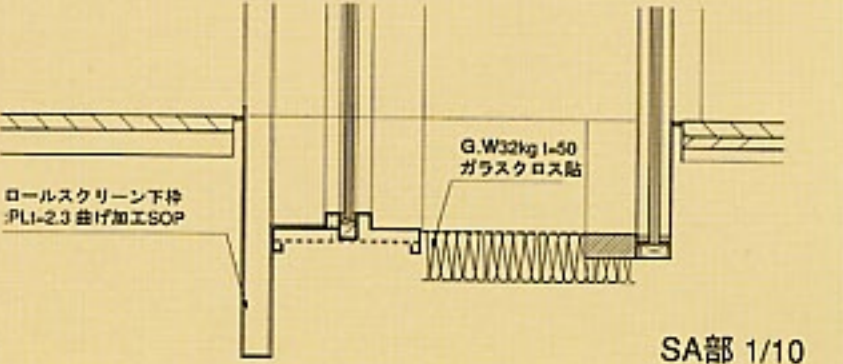
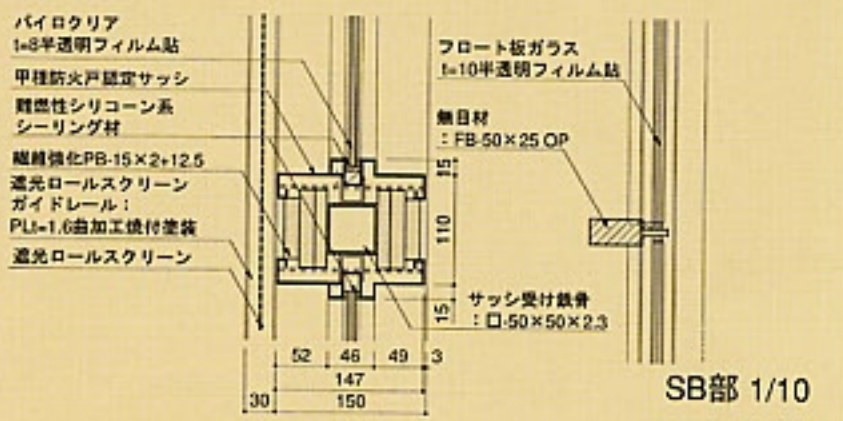
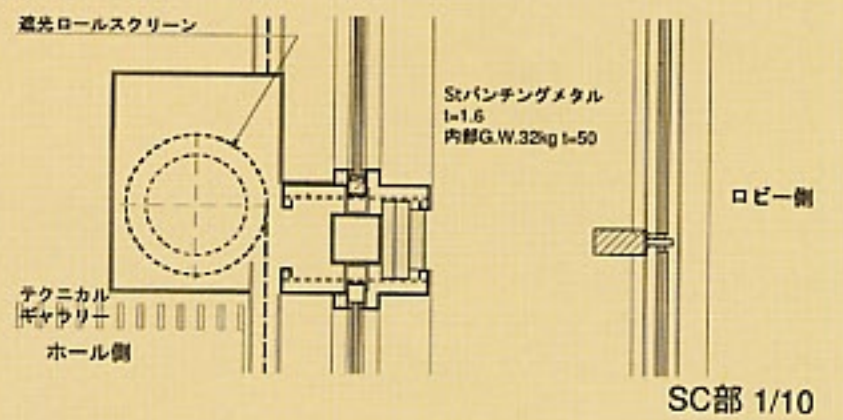
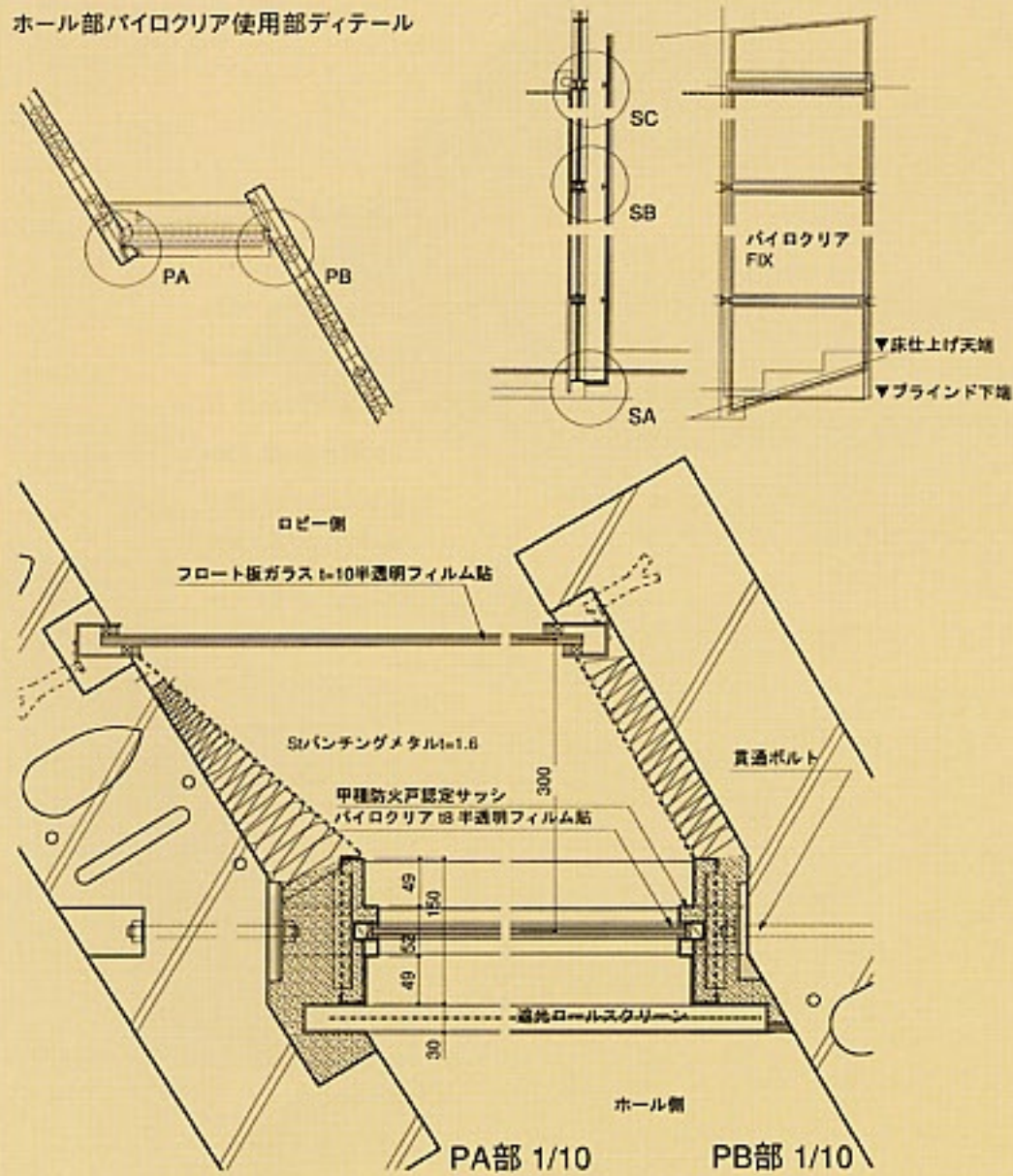


ホール内観 photo by Ohashi Tomio

図書館入口上部バイロクリア使用部ディテール



ホール部バイロクリア使用部ディテール



建築概要

名称	大社文化プレイス
所在地	鳥根県藤川郡大社町竹築南1338-9
面積	敷地面積:20,400.17㎡、建築面積:5,567.37㎡、延床面積:5,847.36㎡
構造・階数	RC造・一部S造、地上4階
寸法	最高高:21,769mm、主なスパン:3m×4.5m
設計	建築:伊東豊雄建築設計事務所、構造:佐々木陸朗構造計画研究所、設備:総合設備計画、外構設計:日本工営、積算:同積算事務所、音響:永田音響設計、照明計画:小泉産業LCR、劇場計画:日本大学理工学部本杉研究室、舞台照明計画:ライティングカンパニーあかり組、家具・サインデザイン:K.T.Architecture、ロゴ・CIデザイン:マツダオフィス
監理	建築:伊東豊雄建築設計事務所、構造:佐々木陸朗構造計画研究所、設備:総合設備計画
施工	建築:鴻池組・中筋組・岩成工業特別共同企業体、空調・衛生:三晃空調、電気:大成電気水道工業、舞台機構:森平舞台機構、舞台音響:不二音響、舞台照明:松村電機製作所、周辺整備工事:岩成工業(解体)・八宝建設(建築)・中筋組(外構)
設計期間	1996年5月～1997年3月
施工期間	1997年9月～1999年7月
利用案内 (2000年3月現在)	利用時間・うらら館(大ホール、小ホール、会議室):午前9時～午後10時、町立図書館でんでんむし:午前10時～午後7時 休館日・月曜(祝日の場合はその翌日) 電話・0853-53-6500 交通・JR出雲市駅より一畑電鉄バス出雲大社行き「吉兆館前」下車徒歩5分
掲載誌	日経アーキテクチャ1999年12月27日号、GAJAPAN42、新建築2000年1月号

使用ガラス概要

技術担当(総括):日本板硝子・池内清治

フロート板ガラス8・10ミリ エントランスファサード 担当:日本板硝子・鈴木卓

プロファイリット 図書館南側・ラウンジうらら 担当:日本板硝子・榎本貴伸 / 日晶ガラス・國友重弘

●品種・寸法・重量

幅	そで高さ	標準厚さ	最大長さ	重量
262mm	60mm	7mm	5000mm	約6.5kg/m

●光学特性・熱的特性・遮音性能

施工法	可視光線透過率	熱貫流率	平均遮音率
シングル構成	89.0%	4.8Kcal/m ² h°C (5.5W/(m ² °C))	25db
ダブル構成	81.0%	2.3Kcal/m ² h°C (2.7W/(m ² °C))	41db

*平均遮音率はDIN52210による試験データ(100～3200Hz)

バイロクリア 図書館入口上部・だんだんホール壁(甲種防火戸として使用) 担当:日本板硝子・杉浦公成 / 紅雲製作所・松尾俊彦

●乙種防火戸・甲種防火戸に使用できる耐熱強化ガラス「バイロクリア」の特性

呼び厚さ(ミリ)	線膨張率(10 ⁻⁶ /°C)	ヤング率(10 ⁶ kgf/cm ²)	比重	モース硬度(度)	耐風圧強度/許容荷重(kgf)
6.5	8.5	7.3	約2.5	約6.5	1,600以上
8	8.5	7.3	約2.5	約6.5	2,400以上

*許容荷重:破壊確率1/1,000の際の許容荷重を示す。(参考)網入麻板ガラス(6.8ミリ)440kgf・(10ミリ)650kgf

●品種表

品種	色/パターン	呼び厚さ(ミリ)	最大寸法(mm)	最小寸法(mm)	
バイロクリア6.5	フロート板ガラス	クリア	6.5	2,400×1,200	300×200
	フロート板ガラス	クリア	8	2,700×2,000	
バイロクリア8	熱線吸収板ガラス	ブロンズ グレー グリーン ブルー	10(熱線ブルー除) 12	2,400×1,800	914×304
	熱線反射ガラス (レフライト)	レフライトS レフライトB レフライトSブロンズ レフライトSグレー レフライトSブルー			
	高性能熱線反射ガラス (レフシャイン)	透明 タイプ	標準色Sシリーズ 標準色Tシリーズ 準標準色Tシリーズ 準標準色Cシリーズ		

*日本板硝子がバイロクリアを使用した甲種防火戸(バイロドア、バイロスクリーン)で取得している仕様は、透明タイプ(8ミリ)のみ

日本板硝子株式会社

札幌/011-241-7171

仙台/022-712-5871

東京/03-5443-0132

名古屋/052-962-7079

大阪/06-6222-7534

広島/082-263-3571

福岡/092-451-5592

SPACE MODULATOR REPORT 1

発行日:2000年3月(00/03/03)

発行所:日本板硝子株式会社

SPACE MODULATOR 編集部

湯川哲比古

E-mail: Nsg-Archi@mail.nsg.co.jp

URL: http://www.nsg.co.jp/spm/index.html

企画編集:AZ環境計画研究所

山崎泰孝・大工原 潤

制作:小島良平デザイン事務所

編集協力:伊東豊雄建築設計事務所

伊東豊雄・富永 謙

表紙撮影:大橋富夫

印刷:大日本印刷株式会社 禁断転載